授業科目	社会学と社会システム					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	1	開講時期	後期
担当教員	杉谷　修一						
授業概要	社会的存在としての個人が組織や制度のような複雑な姿とどのように結びつくのか。ミクロな視点とマクロな視点を方法論として理解することが社会学の学習には不可欠である。また現代社会の抱える多様な問題について知ると同時に、様々な角度から分析する手法を学ぶ。 社会を理解するために歴史的な視点（特に社会学成立期の近代社会の変動）、比較文化の視点（地域や文化が異なる対象を比較する）、生活者としての個人の視点（自分自身の日常を対象として意識化する）などを重点的に社会学の基礎を学ぶ。						
授業形態	講義			授業方法	Google Classroom の活用 ・自主学習の支援（レジュメ、資料等の掲示） ・学生からの質問等に対する回答・解説の掲示 ・Google フォームによるアンケートや小テストなど		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	(1) 社会システム論の観点から、現代社会の特性を基本的に理解できる。 (2) 代表的な社会学理論に基づき、生活の多様性について基本的に理解できる。 (3) 代表的な社会学理論に基づき、人と社会の関係について基本的に理解できる。 (4) 社会問題とその背景について基本的に理解できる。
理想的レベル	(1) 社会システム論の観点から、現代社会の特性を十分に理解できる。 (2) 代表的な社会学理論に基づき、生活の多様性について十分に理解できる。 (3) 代表的な社会学理論に基づき、人と社会の関係について十分に理解できる。 (4) 社会問題とその背景について十分に理解できる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	100%	
小テスト		
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他		

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	○	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	WE21203J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
予習 ・Google Classroom に掲示する資料（配布スライド資料、参考資料、動画リンク等）を活用する。 復習 ・予習で使用した資料に加え、授業中に指示した資料を活用し、興味、関心、疑問点を調べる。	4

授業計画	
第 1 回	社会学の成立とその背景
第 2 回	社会システムの考え方
第 3 回	マクロ社会学の基礎（1）社会構造と機能
第 4 回	マクロ社会学の基礎（2）社会変動
第 5 回	マクロ社会学の基礎（3）集団と組織
第 6 回	マクロ社会学の基礎（4）社会階級と社会階層
第 7 回	マクロ社会学の基礎（5）役割理論
第 8 回	ミクロ社会学の基礎（1）社会的行為
第 9 回	ミクロ社会学の基礎（2）相互行為と自我論
第 10 回	ミクロ社会学の基礎（3）演劇的行為と秩序
第 11 回	現代の社会問題（1）貧困
第 12 回	現代の社会問題（2）差別と社会的分断
第 13 回	現代の社会問題（3）人口
第 14 回	現代の社会問題（4）コミュニティ
第 15 回	現代の社会問題（5）グローバリゼーション
テキスト	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編　『最新　社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 3　社会学と社会システム』　中央法規
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	岸政彦『断片的なものの社会学』朝日出版社 田中正人、香月孝史『社会学用語図巻　人物と用語でたどる社会学の全体像』プレジデント社 Google Classroom にて掲示する資料を参照のこと。
課題に対するフィードバックの方法	課題・質問等への回答は以下のように行う。 （1）授業中に全体に説明する。 （2）Google Classroom に掲示する。 （3）メールでの質問は本人への回答を基本とするが、許諾があれば全体で共有する。
学生へのメッセージ・コメント	社会学は抽象的な理解や操作を必要とすることが多いため、テキストや講義内容の理解を深めるための語彙力が求められる。また近代、特に西洋近代社会の成立に関連する歴史的知識などがあることが望ましい。 身近な問題やニュースを授業で学んだ視点や用語でとらえ直しみて欲しい。概念は暗記するのではなく、実際に使うことによって理解が深まる。テキスト、配布資料の他、動画など視聴覚資料も活用する。